

道連ニュース

2018年9月号 No.146

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2018年度第1回道連理事会報告

8月9日(木)北大生協岸本理事が議長に選出され、麻田会長からのご挨拶のあと、平専務から議決事項①西日本豪雨被害支援募金対応の件②18年度役員報酬の件③コープさっぽろとの出向契約の件④道連理事会オブザーバー参加者の件⑤北海道農業・農村振興審議会委員団体推薦の件⑥道連役員選定委員選出。監事と理事の補充選出及び臨時総会開催の件⑦議案決議効力発生の件一定款一部改訂に関する⑧次回理事会及び次々回理事会運営の件について提案され、議決されました。川原事務局長から審議事項①協同組合間連携推進については、ろうきん・コープさっぽろ・道連の3者懇談会、JA北海道中央会との基本協定締結(案)の提案に対し、実践的テーマについての具体化を図ることを前提に承認頂いた。

②LPガス問題の取り組みについては、積極的に取り組むよう賛同を含め承認いただいた。

平専務から報告事項①一般活動報告②四半期決算報告③アニマルウェルフェア学習会共催開催について—10月27日(土)かでの27 コープさっぽろ・食の自給ネットワークとの共催 ④ヒバクシャ国際署名の取り組み—9月29日(土)呼びかけ人と若者のシンポジウムをメインに1周年記念集会を開催する旨⑤こども食堂の取り組み報告⑥労福協「政策制度要求運動」への参画⑧大学生協理事長会議への協賛⑨福祉問題を総合的に考える委員会報告⑩道の「消費生活協同組合(連合会)に対する厚生労働大臣表彰」推薦の件について報告がなされました。

◆ 北海道労働者共済生活協同組合「第65回通常総代会」 および全労済北海道推進本部「第1回組合員代表者会議」が終了しました ◆

2018年7月31日(火)、北海道労働者共済生活協同組合「第65回通常総代会」および全労済北海道推進本部「第1回組合員代表者会議」をホテルポールスター札幌にて開催しました。

今総代会(組合員代表者会議)には総代(組合員代表者)130名中、書面議決を含む114名が出席し、総代会では「2017年度事業報告・決算報告」「2018年度事業計画・予算設定」「全労済総会の議案審議の件」など全9議案、組合員代表者会議では「2017年度北海道推進本部 推進活動報告」「2018年度北海道推進本部 活動計画」など全3付議事項について、全体で承

認されました。

全労済では、これまでの「Zetwork-60(2014年度～2017年度中期経営政策)」を継承し、2018年度より新たな「New-Zetwork(2018年度～2021年度中期経営政策)」がスタートします。全労済の理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の実現に向け、New-Zetworkでは組合員一人一人に寄り添い、より身近な存在として組合員と「深く」「長く」関係づくりを進め、その力をもって「広く」事業と運動の発展を目指していきます。



山上理事長



総代の皆さま

今回の「戦争を語り継ぐ集い」は第一部、「日本の民話を語り継ぐ会」の4名で、藤井紀子代表の挨拶があり、亀川正子さんの「ほたる」、佐藤雅子さんの峠三吉、原爆詩集から「仮包帯所にて」、植松憲二さんの「天人の少年兵（網走空襲）」、藤井紀子さんの「砂のごま塩おにぎり（富良野町）」、それぞれ語りべの方々からお話しをして頂きました。話し方が真に迫るため、当時の状況が目に見え、感慨深い思いになりました。

第二部でビデオ上映、「昭和と戦争」というビデオテープで全8巻のうち第7巻（昭和20年～21年）の「焼け跡をさ迷う～進駐軍がやって来た～」戦後まもない日本の映像と解説。復員と引き揚げ、闇市と買い出し、天皇の人間宣言と全国巡幸、青空教室と墨塗り教科書、第一回総選挙、日本国憲法公布。当時の日本人が懸命に生き、助け合いの気持ちを取り戻していく姿を約20分間、上映しました。当時の事を思い出され語り合っている方もいらっしゃいました。

第三部では室内昭三さん90歳の体験談で「台湾での生活」を講演。室内さんは陸軍航空隊の整備士で当時、台湾に駐留した部隊で航空機の整備をしていました。敗戦も濃厚になってきた昭和20年（自分達は日本が負けるとは思っていなかったそうです）、軍は特別攻撃隊を編成すると告げました。どの様な隊なのか皆、期待していたそうです。しかし、それは航空機の重量を減らすためにパイロットの後方にある鉄製の防御版やコックピットの計器などが取り外され、ただ飛ぶためだけに必要な状態にし250キロ爆弾を搭載、二度と戻れない片道燃料で誘導機に誘導され敵の標的に体当たりすると言うものでした。昨日まで話しをいていた同年代の若いパイロットが昨日は二人、今日は三人と次々に飛び立っていったそうです。当時、飛行場の近くに咲いていた黄色い野花が今、自宅の近くにも咲くそうです。その花を見ると思い出され、見る事が出来ないと話されていました。

北海道医療生活協同組合 生協本部 渡邊和也 拝

子ども食堂 関連情報

事務局 松本

子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び運営上留意すべき事項の周知！

平成30年度6月28日・厚生労働省

「子ども食堂は、子どもの食育や居場所づくりにとどまらず、それを契機として、高齢者や障害者を含む地域住民の交流拠点に発展する可能性があり、地域共生社会の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されます」とした位置づけの下、表題にある通達が厚生労働省より各県知事、政令指定都市市長等に向けて発信されました。道生協連は2017年度当初より、安全で安心できる「子ども食堂」「地域食堂」が多くの地域で生まれ育つことを願い、「こども食堂北海道ネットワーク」を立ち



上げ、一緒に様々な問題を考え、行政や支援事業者と共に運営を応援してきました。全国的に2,200を超え

る自発的な「子ども食堂」「地域食堂」が運営されている現実の下、国が更なる支援の輪拡大に向けてこの通達を発信したこ



とは、運営者の皆さんへの励ましになると共に、様々な「容」で応援している全国の生協にとっても応援メッセージになっています。道生協連としても「こども食堂北海道ネットワーク」設立2年目にあたって、「安全」と「安心」をめぐる諸施策、諸対応を今後も継続支援、サポートしてまいります。会員生協の益々のご協力を宜しくお願い致します！

広がれ！こども食堂の輪！全国ツアー in 道東(帯広)が開催される！（8/4）

こども食堂北海道ネットワークに一早く加入し、帯広と芽室で活動している「wewとかち」の皆さんが道東地域の運営者、行政に呼び掛けて“みんなの居場所を考える”と題してシンポジウムを開催しました。行政担当部署の思い！協働への工夫！実践の地域的特長！等々率直に語り合う場となり、高校生ボランティアさんからの素朴な大人への問いかけを含め、沢山のサポーターの応援の下、成功裏に開催されました。